重要伝統的建造物群保存地区の曲線道路における期待感の要因分析-佐原を対象として-

Analysis of Factors Affecting the Sense of Expectation on Curved Roads in Important Preservation District for Groups of Historic Buildings: A Case Study of Sawara

磯野研究室：22B2008 伊東輝幸
22B2019 太田康聖
22B2066 清宮歩夢

1. 研究の背景・目的

現在、歴史的な町並みを保存するために重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建地区）が全国各地で選定されている [1)]。これらの地区では、歴史的景観の保全に加え、来街者の体験価値の向上が求められている [2)]。

千葉県で唯一、重伝建地区に選定されている佐原の町並みは、道路が緩やかに折れ曲がる曲線的な構成を特徴としており、この曲線的な街路は、歩行に伴って視界が連続的に変化する「シークエンス」を生み出し、視界に映る要素から、先の景観を予測することで「この先には何があるのか」といった好奇心を抱かせている。こうした空間構成は、歩行者の体験価値に直接的な影響を与えている。

歩行者が曲線街路空間で感じる期待感や心理的プロセスを明らかにした研究はある [3)] が、重伝建地区に焦点を当てたものは行われていない。

本研究では、重伝建地区における来街者の体験価値向上のために、重伝建地区である佐原の曲線道路を対象に、歩行者がどのような要因によって期待感を感じるのかを分析し、その要因を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

2.1 対象地の概要

佐原は千葉県香取市に位置し、江戸時代に商家町として発展した水郷である。曲線道路と歴史的町並みが複合する希少な環境を有しており、このような空間構成が来街者の期待感をより強く誘発すると考えられることから、本研究の対象地とする。

2.2 研究構成

本研究は図-1 の構成で研究を進める。

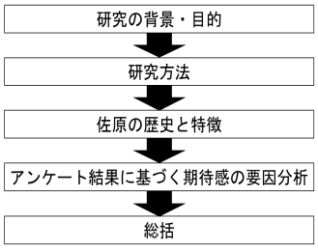

図-1 研究構成

2.3 調査方法

本研究では、VR ゴーグルを用いて期待感に関するアンケート調査を実施する。得られた回答を基に歩行者が感じる期待感の要因を把握し、その関連性を調べる。

2.3.1 アンケート調査で使用する歩行映像の撮影

佐原の曲線道路において現地調査および撮影を行う。歩行者の視点に近い景観体験を再現するため、地上約 150cm の位置に GoPro を固定し、実際の歩行速度で映像を撮影する。撮影映像から、歩行者の有無や景観の移り変わりを整理し、対象ルートを選定する。

2.3.2 アンケート調査内容

重伝建地区の曲線道路における期待感を生む要因を調査するために、アンケート調査を実施する。調査対象は佐原を訪れたことのない学生 40 名とし、VR ゴーグルを用いて歩行映像を視聴させる。対象者には、視聴中に期待感を感じた場面で挙手するように指示し、視聴後に挙手した各場面について、「どの程度の期待感を感じたか」、「期待感を感じさせる要因」、「その要因についてどう感じたか」の 3 点について、紙面により回答させる。また、「期待感を感じさせる要因」について、強いと感じた順に 1 位から 3 位までの順位づけを行わせる。

3. 佐原の歴史と特徴

3.1 佐原の歴史と変遷

佐原は、江戸時代に利根川水運の中継地として発展し、河岸を中心に商家や醤油醸造業が集積した。明治以降、水運の衰退により商業機能が低下したが、江戸時代から続く町並みや建築群が比較的良好な状態で残存し、1996 年に重伝建地区に選定された。

3.2 道路形態の特徴

佐原の道路形態の特徴は以下の 2 点であった。

1) 小野川に沿って緩やかな曲線が連続する構成を特徴とする。この曲線道路では、歩行に伴って視界が徐々に変化し、建築物や水辺空間が段階的に現れるという体験を生み出す [3)]。
2) 小野川沿いを歩く場合と建築物側を歩く場合で、見える要素や開放感に差が生じ、同じ道であっても歩行位置によって異なる景観体験が得られる。

3.3 景観の特徴

佐原の景観は、小野川沿いに連続する歴史的建築物と水辺空間が一体となって構成されている点が特徴である。建築物と小野川を同時に視認できる構成に加え、橋や船着き場が各所に配置されていることで、歩行者は水辺空間と重伝建地区の町並みを同時に体験できる。

図-2　対象道路とエリア分け [4)]

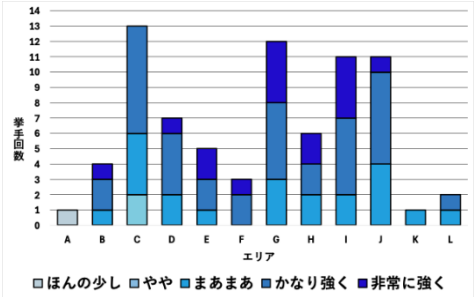

図-3　各エリアの期待感強さ

エリア	曲率	要因	理由
C	0.07	対岸の建築物	開放感がある
		沿道の建築物	風情がある
		その他（空）	開放感がある
G	0.09	道路	開放感がある
		川	美しい/映える
		その他（風景）	心地良い
I	0.02	道路	ワクワクする
		その他（先が見えない）	ワクワクする
		対岸の建築物	歴史性/特別感
J	0.07	その他（空/風景）	開放感/美しい
		道路	ワクワク/開放感
		対岸の建築物	歴史性/開放感

表-1　挙手回数上位４エリア

4. エリア分け

アンケート調査の「期待感を感じさせる要因」、「その要因についてどう感じたか」の集計結果から、特定の要因が期待感に与える影響をより詳細に分析するため、A～L の 12 エリアに分割した。(図-2)。

5. アンケート結果に基づく期待感の要因分析

5.1　各エリアにおける期待感の全体傾向

各エリアを比較すると、期待感を感じる頻度および要因はエリアごとに大きく異なっていた。C、G、I、J エリアは「非常に強く」等の回答が集中する期待感の強いエリアであった。一方で、A、F、K、L エリアは期待感を強く感じた回答はほとんど見られず、他のエリアと比較しても期待感が弱い傾向があった。(図-3)。

5.2　期待感の要因に関する考察

5.2.1　期待感が強いエリアの分析

期待感が強かった C、G、J エリアは曲率が 0.07 以上と他のエリアと比べて大きい数値である。これらのエリアは、小野川を挟んだオープンスペースにより対岸の建築物の全景が視認できるエリアであった。このことから、これらのエリアは開放感や歴史性が期待感を強くしていたと考えられる。一方、曲率が 0.02 と小さい数値である I エリアで期待感が強かった理由は、次に続く J エリアの曲率が大きく先が見えないことで、J エリアと同様の曲線道路による期待感を得たことが考えられる。(表-1)。

5.2.2　期待感が弱いエリアの分析

期待感が弱かった A、F、K、L エリアは、曲率が 0.04 以下と小さい数値である。一方で、D エリアでは曲率が 0.07 と比較的大きいが、C、G、I、J エリアより挙手回数は少なかった。これらのエリアでは歩行中に進行方向の景観が見通せてしまい、期待感が生まれにくかった可能性が考えられる。

5.2.3　期待感が強い・弱いエリアの比較

期待感が強いエリアでは、曲率の大きいエリアにおいて進行方向の見通しが段階的に変化し、「先に何があるのか」という予測をさせ、期待感を生み出していたと考えられる。一方、弱いエリアでは歩行中に進行方向の景観が見通せてしまい、期待感が生まれにくかった可能性が考えられる。

6. 結論

曲線道路の平面形状およびアンケート調査より、「曲線道路の期待感は、先が見えない・曲率が大きい」ことが関係するという先行研究の結果が追認できた。一方でアンケート調査では、対岸の建築物に対して歴史性、空に対して開放感を感じるという回答が多かった。これらは小野川というオープンスペースを挟んでいることで、対岸の建築物の全景が見え、重伝建地区の町並みとして視認することができるからだと考えられる。

以上より、本研究は佐原の曲線道路では先行研究で示された事実に加えて、小野川による開放感、対岸の建築物による歴史性も期待感に大きく関係していることが明らかとなった。

これらを生み出している要因は、佐原の重伝建地区ならではであり、建築物や眺望の保全を通じて、来街者の体験価値を向上させることで魅力的な町をこれからも維持することができる。

7. 参考文献

1）文化庁重伝建地区一覧：
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/hozonchiku/judenken_ichiran.html, (最終閲覧 2025 年 9 月 25 日)

2）香取市：香取市歴史的風致維持向上計画. https://www.city.katori.lg.jp/culture_sport/bunkazai/fuuchi_keikaku/310326.files/Katori-rekimachi-3.pdf
：(最終閲覧：2026 年 1 月 13 日)

3）松本直司,藤田幸男,松野靖代：曲線街路空間における期待感の研究,日本建築学会計画論文集,2012, 第 77 巻 675 号, 1017-1022.

4）かとり地図 GIS：(最終閲覧 2026 年 1 月 12 日)
https://katori-gis.geocloud.jp/mp/100/vlf/000084